

# 常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年10月15日(金)

その2

## ◇ 白亜の校舎（校舎の外壁工事開始）

先週より、本校校舎・体育館の【白亜の校舎】外壁工事が本格的に始まった。平成30年の計画では、令和2年度内の工事が市内小中学校の空調設備の早期設置等により1年先送りされる形とはなったものの、市の財政が厳しい中で実施していただけることは、本当にありがたいことだ。また、昨年度、工事下の心配事なしで「開校120年記念式典」を開催できたことを考えれば、最もよいタイミングであるとも受け取れる。個人的に言えば、「開校120年」と「校舎改築」という学校の大事業年に携わることができたことは幸運であり、幸せこの上ない。

さて、工事は土台・基盤・環境整備からはじまる。よって、外壁工事の場合は【足場づくり】がスタートである。



工事 2 日目



左が工事2日目、右が4日目の写真である。仕事が安全かつスピーディーだ。

荷材を屋根上まで運び上げるためにクレーン車も登場。重機の発動に驚かされたが、一番の驚きは仕事の過酷さとチームワークである。

手渡し➡組立➡手渡し…延々と続く。おそらくこつはあるだろうが、何しろ相手は重い合金だ。体力に加え、集中力が要求される。それを難なくやっているように見えるのだから、流石さすがにプロである。



工事 4 日目



職人たちの仕事に無駄がないのが分かる。  
聞こえてくるのは、足場を組み立てる金属音。  
リズムがある。

時折、若い主任から指示が出る。その際には  
職人の手が止まり、指示を受けたやり取りの  
後、またリズムのある金属音が響く。安全が第  
一の仕事場に、私語は不要ということか。それが集中力=安全性を生むのだ。



授業も同じである。

教師がしゃべり続ける授業は、充実しているようで深まりがない。

子供のつぶやきだけ進行する授業も、見た目にはよいが深まりがない。

そこに拳手という所作が加わると発言に責任が生じ、責任をもった発言のための思考が子供の脳内を駆け巡る。そうすることで、根拠に基づいた建設的な考えや発想が生まれ、学びに深まりが生じていく。集中力も然り。リズムもある。

教師は、子供の学びを深めるための「導き」「切り返し」で子供の考えを引き出し、その後の子供同士で交わされる「賛同」「称賛」「相違」「代案」等によって、子供たちで着陸地点にたどり着くのである。本校もこうした授業を目指している。

「足場」の組立は、上方に行けば行くほど危険度を増す。その危険を回避し、安心して仕事をするための【命綱】がある。

教師の役割は、この【命綱】であろう。

子供が安心して学校で生活し、学び、活動することができるよう、子供をしっかり支え、補佐することにある。



さて、校舎の北側から行っている工事であるが、北側の足場が組み上がると、次は足場を囲むように防護ネット（安全ネット）の装着。続いて南側と管理棟の足場組みに取り掛かっていくそうだ。

そうすると、ネットですっぽりと覆われたような外観になる。少し見た目は寂しいが、これも我慢。

白い紋白蝶が大空に舞う前の「蛹」。

「蛹」の時代があるから、【蝶】になるのだ。

